

編集 後記

本号は原著2本，研究ノート1本，資料2本の計5本の論文が掲載されています。いずれも興味深い内容でした。一例として冒頭の論文を紹介します。女子学生の「隠れ肥満」の問題に切り込んだ間瀬らの論文では，やせ願望やダイエット行動が標準体重女子学生における体脂肪率の高さに関連することを示しています。昨今の「やせを良しとする社会風潮」に警告を鳴らす貴重な成果ではないでしょうか。

筆者自身は心療内科医をしていることもあって，摂食障害に苦しむ女子学生や働く人を診療する機会がたびたびあります。病気になってから専門医を受診してもなかなか簡単に治るものではありません。やはり病気になる前や，病気になったばかりの早期に対応を始めたものです。学生時代からの予防対策をしっかりと進め，食行動や体型イメージに対する正しい健康リテラシーの普及・啓発に努めることが大切です。この点でも公衆衛生学が果たすことのできる役割は大きいと考えています。

日本でも公衆衛生学大学院が専門職大学院として設置されるようになり，行動科学・健康教育学はその主軸の1つとなっています。筆者らの所属する帝京大学では，私学として初めて公衆衛生大学院を開校しました。スタートして2年目となりましたが，順調に稼働しております。興味のある方は是非ホームページをチェックして下さい。
(中尾睦宏)

次号予告 (第59巻・第7号)

研究ノート

- 生きがい意識尺度 (Ikigai-9) の信頼性と妥当性の検討……………今井忠則，他
飲食店における受動喫煙防止対策の実態と禁煙化による経営への影響についての考察……………宇佐美毅，他
都市部の基本健康診査受診者における喫煙と生活習慣病の関連……………勝田早希，他
行政保健師の職務への自信とその影響要因……………小川智子，他

資料

- 前期高齢者におけるBMI別医療費と医療費高値群の特性29,490人の大規模データを用いた検討……………鈴木(齋藤)智子，他

連載

- ヘルスサービスリサーチ(2)……………池田俊也

第59巻第3号におきまして，掲載内容に誤りがございました

- P. 195「平成23年度第2回日本公衆衛生学会理事会」出席者として記載いたしました「安村誠司理事」は欠席でございました。謹んでお詫び申し上げますとともに，訂正させていただきます。